

## 久留米大学を受診した患者さんへ

「Silent MRA における臨床的検討」について

この研究では、久留米大学を受診し、脳動脈瘤に対しステント併用コイル塞栓術を施行した患者様において撮像された Silent MRA 画像情報を使用します。

- 1) 期間：2016（平成 28）年 1 月から 2016（平成 28）年 8 月
- 2) 受診科：脳神経外科
- 3) 対象疾患名：脳動脈瘤
- 4) 使用する試料（情報）：診療情報等

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

**研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。**

**ご了承いただけますよう、お願い申し上げます。**

- 1) 研究組織：所属：久留米大学病院 画像診断センター

研究代表者：診療放射線技師 後藤達朗

研究分担者：診療放射線技師 副技師長 川田秀道

診療放射線技師 副技師長 梨子木一高

2) 研究の意義と目的：脳動脈瘤塞栓術は、脳血管内治療のもつ低侵襲性という特性が発揮できる手技であり、コイル塞栓術はクリッピング術と同じく脳動脈瘤に対する重要な治療法となっており、術後の経過観察として、コイル内への血流再開通の有無の評価が重要であり、その手段として、非侵襲的に脳血管画像が得られる MRI 検査が有用です。当院においても、コイル塞栓術後患者検査プロトコルとして、高分解能条件による Time-of-flight MRA（高分解能 TOF MRA）を撮像しています。しかしながら、広頸動脈瘤に対するコイル塞栓術においてはステントアシストテクニックが用いられ、ステントによる金属アーチファクト（障害陰影）により、従来の TOF MRA ではコイル内への血流及びステント内血流の評価が困難でした。

当院に導入された SILENT SCAN シーケンスは磁化率や位相分散の影響を最小限に抑える特性を有しているため、金属アーチファクトの低減が報告されています。当院においても、ステント併用コイル塞栓術後患者に対し、SILENT SCAN シーケンスを用いた MRA（Silent MRA）を撮像することによって、ステントによる金属アーチファクトが低減され、コイル内への血流及びステント内の血流の視認化も期待されています。今後、ステント併用コイル塞栓術後患者プロトコルとして、高分解能 TOF MRA に対して Silent MRA による運用を目的としています。

- 3) 研究の方法：当院にて脳動脈瘤に対しステント併用コイル塞栓術を施行し、後日コイル

研究番号 16128

内への血流評価目的で MRI 検査を受けた患者に対し、両手法における画像を比較し、診療放射線技師 5 名による視覚的 5 段階評価を行います。データ管理方法は、MRI センター内の PC 内に保管し、セキュリティのため、データベースにアクセスするためのパスワードを設定し、部外者が開けないように厳重に管理します。

4) 研究期間：平成 28 年 9 月倫理委員会承認後～平成 29 年 9 月。

5) 上記の情報の使用を選定した理由： RIS（放射線情報システム）より、高分解能 TOF MRA 及び Silent MRA を撮像した患者をピックアップしました。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：個人情報保護のために使用する患者様のデータは全て連結可能匿名化し、発表に関する画像データに関してもアノテーションを削除します。

7) 研究成果の発表の方法：第 11 回九州放射線医療技術学術大会での発表予定です。(2016 年 11 月 5 日（土）・6 日（日）)

8) 利益相反：本研究は、画像診断センターの国内旅費、会議・研修会等出張参加費にて実施するため、特定企業からの資金援助はないため、利益相反は発生しません。

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：久留米大学病院 画像診断センター 後藤達朗  
〒830-0011 福岡県久留米市旭町 67  
TEL：0942-31-7635 内線 5417